



県中いわて

令和6年6月1日 / 第262号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺哲男（盛岡市立仙北中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9
（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

県内の中学校を牽引する「同僚=県中学校長会」として ビジョンを共有し、将来、岩手・日本を支える子どもたちを育てる 第62回岩手県中学校長会総会（令和6年4月26日開催）



第62回岩手県中学校長会総会が4月26日(金)午前に都南文化会館（キャラホール）において開催されました。今年度は午後に第75回全日本中学校長会研究協議大会岩手大会の拡大運営委員会を開催する兼ね合いにより、午前に本総会を開催いたしました。議事においては盛岡地区の三浦 隆（黒石野中学校長）、二戸地区の中野善文（福岡中学校長）両氏を議長として選出し、会を進行しました。昨年度の活動及び予算の執行状況について審議の上、承認をいただくと共に、今年度の活動方針及び予算案に加えて、今年度の新役員についても承認されました。



会長あいさつ（要旨）



岩手県中学校長会 第54代 会長 小野寺 哲 男
(盛岡市立仙北中学校)

本日、岩手県教育委員会教育長 佐藤一男様をはじめ4名の来賓の臨席を賜り、第62回岩手県中学校長会総会を参集して開催できることに心から感謝申し上げます。

この3月末にご勇退されました中屋豊会長をはじめ、35名の皆様に厚く御礼申し上げます。また4月から新会員となった37名の皆様、歓迎いたします。県中学校長会は、「会員相互の協調と連携を基調に、中学校長としての職能の向上を図り、本県教育の振興に寄与すること」を目的としております。144名の校長が学校経営及び教育活動の充実を図ることが、生徒の成長ひいては本会並びに本県教育の発展に資すると考えております。

さて、私たち校長は教諭の時代から仲間と共に授業や部活動等の指導をしてきました。平成21年以降は、「いわての義務教育」が示す「『知・徳・体』を総合的に兼ね備えた社会を創造する能力を育てる『人間形成』」を念頭に教育活動を推進してきました。また、東日本大震災津波以降は、「いわての復興教育」を大切にして歩んできました。この間、生徒が成長し13年が経過した今、彼らが岩手・日本を創る人材

として成長していることに喜びを感じています。令和6年能登半島地震など災害が重なる現状で、岩手の元気が日本の元気につながると期待しています。

現在は、校長として学校は何のためにあるのかという教育の原点を大切にしつつ、時代の流れを受け止め、学校経営にあたっています。その際、家庭・地域の協力を得ながら、各校の特長を生かした教育活動に努めるとともに、「校長は教育行政の一翼を担う学校現場のリーダーである」という意識を持ちたいと考えております。県中学校長会としては組織を生かし、会員相互はもとより、全日本中学校長会とも情報共有しつつ、よりよい学校経営のために率直に話し合い、多様な課題を自分事としてとらえ、引き続き「チーム岩手」の意識で「一枚岩となった会の運営を」と考えております。

特に、10月4日には、第59回岩手県小・中学校長研究大会が二戸市で開催されます。さらに、10月16日～18日には、第75回全日本中学校長会研究協議会（兼第74回東北地区中学校長会研究協議会）の岩手大会が、46年ぶりに盛岡で開催されます。実りある協議会となるよう校長全員で取り組んでまいりましょう。

ご祝辞（要旨）



岩手県教育委員会
教育長 佐藤 一 男 様

第62回岩手県中学校長会定期総会の開催に当たり、岩手県教育委員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

県では、自らの夢や目標に向けた思いや決意、地域に対する考えについて、今般、「岩手県教育振興計画（2024～2028）」を策定しました。本計画は、新たな時代の中で、誰一人として取り残されず、県民一人ひとりの個性や能力が発揮され、自分らしくいきいきと活躍できる社会の実現に向けて、教育の分野で貢献していくことを基本目標とするものであります。各学校におかれましては、すべての子どもたちの自分らしい生き方の実現に向けて、教育活動

のより一層の充実を図っていただきますようお願いいたします。

また、岩手の教員のあるべき姿を実現するべく、昨年度新たな「教員等育成指標」に基づく研修制度を構築しました。教職員一人ひとりが適切な目標設定や現状把握に努め、この先の社会変化を前向きに受け止めながら探究心を持って自律的に学び、そのことが児童・生徒に還元できるよう、引き続き人材育成に向けてお力添えいただきますようお願いいたします。

結びとなりますが、校長先生方には今後とも、岩手子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げ、併せて、岩手県中学校長会のますますの発展を御祈念申し上げまして、祝辞といたします。

令和6年度行政説明の概要

教育行政上の課題

教職員課首席経営指導主事兼小中学校

人事課長兼服務管理監 佐藤 孝之 様



1 令和6年度学校教職員定期人事異動について
異動総数は事務職を含まず1206名(20.2%)であり、そのうち校長昇任者77名、副校長昇任者86名であった。昨年度に引き続き女性職員の管理職登用が求められている。

2 少人数教育の推進について

本県は、現在小中義務教育学校のすべての学年において、35人以下学級が実現している。今後も「少人数指導」を積極的に進め、個に応じたきめ細かな指導を行い、基礎学力の向上を図っていく。

3 小学校高学年における教科担任制の推進について

国では、教育の質の向上を図りながら教員の持ち時数を軽減するなど、働き方改革を進めるために小学校高学年での教科担任制を推進している。実際に取組を進めている学校からは、授業の質の向上、教師の負担軽減といった成果が報告されている。

4 (暫定)再任用・定年延長等について

今年度、暫定再任用の人数は合わせて395名である。今年度以降は定年年齢引上げの関係で、暫定再任用勤務者は段階的に減少していく見通しである。

また、定年前再任用短時間勤務や高齢者部分休業制度等の新たな制度の運用が開始された。今後も再任用等の方々にはこれまでの経験を活かし、校長の学校運営を支えていただきたい。

5 人材育成について

昨年度から受験年齢引き下げなど「管理職等任用に係る受験資格の見直し」を進めている。教師としての総合力に長け、将来管理職として活躍が期待できる人材については、教育事務所の所長訪問等を活用しながら、適宜、情報を提供するとともに、任用についての意思を確認し、受験を勧めてほしい。

6 不祥事の未然防止について

最近の、教員の児童生徒への対応に対して、保護者からの苦情が増加、かつ内容が多様化し、長期化するものが増えている。

先般、再発防止「岩手モデル」が策定された。「不適切な指導の根絶」を目指し、不祥事案については岩手の教職員全てが自分事として捉え、校長先生を中心に各校での工夫した取組を推進願いたい。

7 働き方改革の取組について

健全な教育を推進するためには「教職員の心と体が健康であること」が第一である。そのため、校長先生方には学校運営において、必要なものと、そうでないものを精選し、児童・生徒、教職員が共に幸せを感じられる学校風土づくりに尽力していただきたい。

また、教職員課でも本県の重点課題である「学力向上」「不登校対策」「ICT活用」等への取組を進めるための、よりよい環境整備に向けて、全力で力を尽くして参りたいと思います。

指導行政上の課題

学校教育室首席指導主事兼

義務教育課長 武藤美由紀 様



今年度から岩手県教育振興計画(2024~2028)に基づき、内容を示しておりますのが、令和6年度の学校教育指導指針でございます。

学校教育指導指針は、校長先生方をはじめ、県内のすべての先生方にとって学校経営が適切に推進できているのかを振り返りにしていただくものです。

指針の表紙にもお示ししているウェルビーイングという国の方向性について、今年度は現場の先生方一人一人へのさらなる周知を目指します。各校の校長先生方には、折々でこの「指針」を活用し、先生方への御指導をお願いいたします。

1 いわて県民計画第2期アクションプランに基づく教育施策の推進

確かな学力の育成では、言語活動の充実を図り、諸調査結果や日々の授業から明らかになったつまずきに着目した授業改善を進めてまいります。このことにより、各学校で計画した、確かな学力育成プランに基づく着実な推進が、より加速化するものと思われます。特に、言語活動の充実、日々の授業での思考の言語化・可視化を促す重要な活動であると同時に、今求められている思考力、判断力、表現力の育成に資するものであります。先生方の授業力向上に向け、校長先生方の指導助言をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 子供を主語にした学びの実現

昨年度の教育課程実施状況調査結果では「校内研究に学習評価の視点を位置付けている学校の割合」が、小学校では69.9%、中学校56.6%といった状況でした。本年度は評価規準を設定して指導した結果、その学習の定着状況について、是非校内で協議や検証の場を設定していただきたいと思っております。実を伴う指導と評価の一体化になるよう、校長先生方の御指導をよりしくお願いいたします。

3 岩手県道徳教育ガイドブック増補版の活用

県内各地で素晴らしい取組を進めてくださっている学校の実践を位置付けております。田老第一中学校、花巻北中学校の実践等、各学校での推進に役立つ取組を掲載しております。

4 岩手県外国人児童生徒等教育方針の策定

先般策定した方針については、今後増加が見込まれます外国人児童生徒等への学習指導について、幼児期から高校進学後までを見据え、三つの柱を基本的な考え方として構成しております。校長先生方には、あらかじめ御理解いただく必要がある教育分野であり、本方針を御一読いただきたく存じます。

最後に、県教育委員会といたしましても、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現をめざし、県中学校長会をはじめ、市町村教育委員会と連携を取りながら、今後も学校への支援に努めてまいります。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に米川聡氏（和賀地区・北上北中）を選出、記録者に菅原文江氏（胆江地区・胆沢中）を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案、一つの調査研究、各種研究大会への対応等について協議・確認を行いました。

調査研究については、今年度、10月に全日本中学校長会研究協議会岩手大会が開催されるため、例年同月に実施していた調査2「教育課程編成実施状況調査」は実施しないこととし、調査1「進路指導推進状況調査」のみを実施することとしました。今年度の調査項目と留意事項を確認しました。実施時期は昨年度と同様の5月に実施することとしました。調査結果の分析・考察は、幹事の米慎司氏（盛岡地区・城西中）、小野寺新吾氏（岩手地区・柳沢中）、佐々木敏之氏（紫波地区・矢巾中）、星和子氏（岩大附属中）のご協力を得ながら、年3回の幹事会を開催して行うことを確認しました。

各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、発表等の年次計画をふまえて推進することを確認しました。



＜研究調査担当理事 久慈 孝＞

行財政部

会議では、議長に吉田智氏（二戸地区・浄法寺中）を選出し、記録者には鈴木雅史氏（盛岡地区・城東中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、行財政調査の内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。内容については、修正・変更等の意見はありませんでした。

その後、幹事に鈴木雅史氏（盛岡地区・城東中）、千田昭宏氏（岩手地区・西根第一中）、角谷隆章氏（紫波地区・紫波第三中）を選出しました。

行財政の調査は、例年より少し早めて6月中旬依頼～8月上旬地区締切の予定で、電子メールを活用して実施します。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



＜行財政担当理事 照井英輝＞

生徒指導部

会議では、議長に米慎司氏（盛岡地区・見前南中）を選出、記録者には木村洋氏（岩手地区・小屋瀬中）を委嘱し、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

生徒指導部の重点事業である「生徒指導の諸課題にかかる調査」は令和5年度分を対象期間として調査を実施します。

今年度は、エクセルファイルによる集約からWEB調査集約に調査方法を変更し、地区担当者の負担軽減を図ります。そして課題であった調査項目の内容については、今後各地区担当者と相談しながら検討していきます。

また、集計した調査結果については、幹事の米慎司氏（前述）木村洋氏（同）及川仁氏（紫波地区・紫波一中）のご協力を得ながら分析・考察を加え、9月実施の生徒指導小・中合同会議資料を作成する予定です。そしてその後、各学校に調査結果をお届けすることを確認しました。今後も、皆様のご協力をお願いいたします。



＜生徒指導部担当理事 廣澤正紀＞

広報部

会議では、議長に小石敦子氏（釜石・大槌地区・大槌学園）を選出し、記録者には鎌田 智氏（宮古地区・小川中）を委嘱して、主に今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、今年度発行予定のNo.262号～No.264号までの事業推進日程を確認しました。その他にも

- (1) 県中学校広報「いわて」の編集計画及び原稿の執筆依頼手順
 - (2) 岩手県中学校長会「会誌第35号」の発行
 - (3) 県中学校長会HPの更新
- などについておしらせならびに意見交換を行いました。

なお、記事となる原稿の執筆（寄稿）依頼等については、各地区理事の校長先生と県中広報部の協議の上で該当になった先生方に依頼文書が送付される予定です。

広報部の活動を通じて、会員の皆様の話題共有や、これまで以上のつながりが図られることを念頭に置きながら業務を進めてまいります。

先生方におかれましては、お忙しいところ誠に恐縮ですがご協力くださいますようお願い申し上げます。



＜広報担当理事 佐々木秀毅＞

退会者代表あいさつ

意義や価値を創造する

前岩手県中学校長会長

中屋 豊



まずもって、昨年度末で退会した35名を代表し、これまでに会員の皆様をはじめ、多くの皆様方からいただきましたご支援ご協力に対し厚く御礼申し上げます。また、新入会員37名を迎え、小野寺哲男新会長のもと、令和6年度岩手県中学校長会が順調にスタートされましたことに、心からお喜び申し上げます。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、それ以降、学校行事や各種大会をはじめ様々な活動が、制限があった数年間の経験、即ち、子どもたちの現状を把握・理解し、目的やねらいを正しく踏まえた上で、内容、時間、人員、方法、場所などを見直して取り組んだ経験を活かして行われています。これはあくまでも「一人ひとりの子どもたちの学びを保障することを最優先に」そして「子どもを主語にした学び」の実践であり、子どもたちに生き抜く力を確実に培うため校長を中心として今後も推進・進化していくものであります。

また、今年度は10月4日に第59回岩手県小・中学校長研究大会二戸大会が、そして同月16日からは三日間にわたり、第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会（兼第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会）がトーサイクラシックホール岩手をメイン会場として盛岡市で開催されます。大会の成功に向けて、組織体制の充実や運営の具体案作成など、組織を挙げて準備を進めてきておりますが、意義や価値は提供されるものでも自然発生的に湧いてくるものでもありません。創造するものです。誰のために価値を提供しているのか、社会に対してどんな貢献をしているのか、その意識を持った校長、実践もあり理論もある校長一人一人により組織された校長会が取り組むからこそ、そこに意義や価値が創られ揺るぎないものになるのだと思います。これまでも県中校長会として様々な要望、提言をしてきましたが、そうした活動ができるのも、例えば、前述のような研究大会を単にこなすのではなく、大会の意義や価値を創造し、組織として取り組める県中校長会だからだと思うのです。あらためて各研究大会が実のある大会となるよう願っております。

終わりにになりますが、今年度の活動方針の一文に「運営方針並びに活動の重点に基づき、これまでと同様『チーム岩手』の意識で一枚岩となって本会の運営にあたるものである。」とあります。中学校現場の課題は多岐にわたり、学校共通のものも個別のものもありますが、県中校長会として緊密な連携を図り、組織運営を充実させ、子どもたちのため課題の改善に邁進していかなくてはなりません。退会者も県中校長会を盛り立てていけるよう支えて参ります。当会の今後益々の充実・発展をご期待申し上げ、退会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

私の学校経営

「現状維持では後退するばかりである」

釜石地区 高橋 信昌（大平中）



東日本大震災を機に、本校の教育理念は「剛健不動（生き抜く力の育成）～復興の主人公たる人材の育成～」となり、教育目標は「健やかな体・思いやりの心・自ら学ぶ意思」となりました。特色ある教育活動として福祉学習が挙げられます。老人介護施設との交流を行いながら、知識や技能を身に付け、3年間の集大成として認知症劇の創作を目指しています。地域を支えていく志を醸成している活動の一つとなっています。

校長職として2年目を迎えましたが、学校経営の根幹にあるのは「現状維持では後退するばかりである」です。管理職となったとき、様々な書物で見かけるのが、「不易と流行」や「旧態依然」という言葉でした。コロナ禍の状況下になり、タブレット等、ICT活用が急速に求められました。そのスピード感に戸惑う教員がいたのも事実です。私もその一人なのかもしれません。しかし、そこで立ち止まることは、子どもたちの教育を妨げることになります。その意識を職員に醸成しながら、これまでリーダーシップを発揮してきました。

先生方は疲弊しています。しかし、それを軽減できる一つが「働きがい」だと考えます。教員一人一人が学校運営に係わり、チーム力を高めるファシリテーターが校長です。そのために、常に現状を把握し、適切な判断と指示ができることを心がけています。自分の言動が、子どもたちや学校運営に反映されることは自信になります。そのことで、教員としての資質も高められると思います。それは人材育成につながると考えています。

東日本大震災から13年。被災地の学校としての責務を教員一人一人が果たしていかなければなりません。震災からの復興、そして、いわての復興教育の推進。子供たちが現状で満足せず、未来をしっかりと創造する能力を育成する学校経営。日々精進し、校長としての資質を高めていきたいと思っています。

新任校長の抱負

新任校長の抱負

盛岡地区 小松山浩樹（渋民中）



本校は、渋民中学校と生田中学校の統合から、41年目を迎えます。

全校生徒159名は、「あいさつ」、「学習」、「群読」を柱に、本年度の生徒会スローガン「共創」の実現に向け取り組んでいます。

パチパチパチ……。4月4日、2年、3年生の拍手に包まれ体育館に入場しました。拍手で感動したのは、人生初の出来事でした。今でも、その時のことを思い出すと鳥肌が立ち、気持ちが引き締まります。拍手で感動を与えられる素晴らしい生徒たちとの出会いに感謝するとともに、校長としての決意を新たにした瞬間でもありました。

平成23年3月11日（金）、私は、山田町立山田中学校で、東日本大震災津波を経験しました。当時の大きな悲しみ、光の见えない不安は、忘れることができません。長い避難所生活で、己の未熟さ、愚かさに向き合うとともに、「教育とは何か」を考えました。そして、いわての復興教育の理念である「郷土を愛し、その復興・発展を支えるひとづくり」を目指したいと思いました。

本校は、今年度から2年間、いわての復興教育スクール〈内陸〉の指定を受け、3つの教育的価値「いきる」、「かかわる」、「そなえる」を踏まえたひとづくりを目指します。

柱の一つ目は、群読劇です。本校が11年前から取り組んでいる伝統です。演目「アテルイ」、「風の吹くところ」の表現活動を通して、郷土を愛する心を育て、「いきる」、「かかわる」ことの大切さに気づかせたいです。

柱の二つ目は、岩手山の火山防災です。学校だけでなく、保護者、地域、関係機関等との連携した取り組みを展開し、郷土に生き続けるためのリスクを考え、ハザードに対して「そなえる」ことの必要性に気づかせたいです。

私は、生徒を中心に据えた魅力ある学校を目指します。教職員が「居場所づくり」、生徒が「絆づくり」に安心して打ち込めるよう環境を整え、「学校は楽しい」を実現したいと思います。

新任校長の抱負

「勇気」をもらったある出来事

岩手地区 三浦 信之（一本木中）



本校は、昭和27年6月に滝沢村立一本木中学校として独立、平成4年4月に小中併設が解かれ独立校となり現在所に移転しました。校庭からは壮大な岩手山を望み、広大な畑地や森林に囲まれた所に立地しています。バレーボールが盛んで、平成7年には全国大会において男子バレーボール部がベスト16入りを果たすなど、現在も地区・県大会で好成績を残しています。また、地域の方々のお力添えをいただき、「一本木さんさ」の伝承にも力を入れています。平成29年8月には神奈川県横浜市で行われた全国中学校総合文化祭に出演しました。

今年一本木中学校は各学年1学級、全校生徒62名でスタートしました。「不撓不屈～あきらめない心～」を生徒会スローガンとし、4つの重点目標を策定しました。そのうちの一つに「表現活動に協力して取り組める学校」という重点があります。その中で「合唱」「応援」「さんさ」に力を入れています。本年度私が赴任した時、「一本木中の生徒達を盛岡市内一周継走大会に連れて行き、周りの学校の頑張っているところを見せると共に、自校の選手たちの頑張りを全校応援させたい。」という先生方の願いを伝えられました。3年生の修学旅行中に、2年生が応援練習の先頭に立ち、1年生に優しく教えていました。3年生が旅行から帰ってくると、1、2年生がその頑張りを3年生に披露してくれました。素晴らしい応援でした。その勢いで盛岡市内一周継走大会に臨みました。選手の力走、全力の応援、そして「一本木さんさ」を他校の前で披露しました。

この生徒たちの頑張りに私は勇気をもらいました。また、生徒達にとってもこの経験から全校一丸となって一生懸命取り組む大切さを学ぶことが出来たと思います。令和6年度のスタートがより良いものになったと思います。これからも先生方、保護者、地域と共に生徒達をより良い方向へ伸ばしていけるよう努めてまいりたいと思います。

新任校長の抱負

笑顔溢れる学校づくりを目指して

胆江地区 南幅 正勝（前沢中）



4月、初めての校長職、初めての地、単身赴任等、様々な不安の中スタートしたことを思い出します。

本校校長室は校舎1階角にあり、生徒の校門・自転車置き場から昇降口までの動線に位置し、校長は門番（見世物？）となっています。ただ、そこでの毎日の生徒との挨拶はじめ、参観する授業や生徒会行事、部活動で見せる生徒たちのパワーを感じることが、どこか懐かしく、学校ってこうだよなあ、と日々幸せな気分を感じているところです。

本校の目指すところは「通いたい学校 通わせたい学校 勤めたい学校」の実現です。そのような学校での3年間で、教師と生徒が温かな信頼関係を構築し、充実した学習活動・生徒会活動・地域活動等を通じて、復興教育の「ひとづくり」の視点からも、正しい判断の下、助け合い協力して、地域に貢献できる生徒を育成していきたいと考えています。

打てば響く子供たち、原石の宝庫と自負する本校では、私の恩師がモットーとしていた『和顔愛語』…笑顔と温かい言葉で、『師弟共流』…一緒に学び成長を目指す、を合い言葉に、個を大事に、語らいを大切にしながら、笑顔溢れる学校づくりのため日々生徒指導にあたっています。

新任校長としてまだまだ見通し持った学校経営ができていない中であって、当然のように次々とトラブルが起こるものです。諸先輩方からは、校長は最終決断者であり、一人孤独な存在である旨を目一杯聞かされていたのですが、その意味を早々に痛感しています。そのような時に、様々相談に乗って下さるのが前校長はもちろんのこと、胆江地区の先輩校長先生方です。学校経営上、温かいご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

スタートしてまだ1ヶ月。自分に課せられた責務の重さを感じながらも、保護者、地域と連携し、この子たちの笑顔のために、教職員の英知を結集し、未来を担う人づくりを進めていきたいと思っています。

新任校長の抱負

新任校長としての抱負

一関地方 今川 晋（舞川中）



教職34年目となる現在の自分が、出会った先輩方の教えが一つ一つのピースとなって、作られていることをしみじみと感じています。直接お世話になった校長先生だけで11名いらっしゃいます。これまで6中学校1施設に勤務しましたから、本当にたくさんの先生方のご薫陶によって今の自分があるのだということを思い返しています。

あらためて、教育者としての自分自身は、模倣の34年間でありました。先輩方から教わったことばかりであることに気づかされます。

いささか心苦しくもありますが、以下先輩方に敬意を表して述べさせていただきます。まず、任用試験でも述べた私の教育理念は、以下の3つ。

- ① 生徒の安心と安全を守り、健やかな成長を支える。
- ② 職員の仕事のやりがいと健康のバランスを大切ににする。
- ③ 舞川中学校に関わるすべての方々との良好な関係をつくる。

「健やかな成長」は、「生徒の自律」「相互多様性の認識」がゴールと考えます。既存の校則や教師の経験則だけを押し付けるのではなく、生徒の「なぜ」という問いを大切にしながら、対話し相互に納得のいく妥協点をさぐる過程こそが生徒の自律につながるものと考えています。また、「健やかさ」について、部活動が任意参加となった近年の生徒の基礎体力低下を心配しています。生徒の生活の中に運動習慣を位置づけることも必須と考えます。また、先生方の「やりがいと健康のバランス」を大切にするためには、私たちの業務内容はじめ、学校行事などの精選が不可欠と考えます。理解を得るためには、学校に関わるの方々との「良好な関係」が鍵になると感じています。

生徒のために何を残し、何を削るべきか判断することが自分の役割であると考えます。何より「生徒」そして「保護者」を優先しながら、舞川地域を盛り上げるお手伝いをしたいと思います。関係各位の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年度末退会者

No.	地区	学校名	氏 名
1	盛岡	盛岡市立下小路中学校	橋 場 中 士
2	盛岡	盛岡市立厨川中学校	中 屋 豊
3	盛岡	盛岡市立大宮中学校	鈴 木 美 成
4	盛岡	盛岡市立米内中学校	照 井 正 孝
5	盛岡	盛岡市立土淵中学校	三 浦 裕 明
6	盛岡	盛岡市立城東中学校	齋 藤 齊
7	盛岡	盛岡市立北陵中学校	小 林 智
8	盛岡	盛岡市立見前中学校	藤 村 健 一
9	盛岡	盛岡市立飯岡中学校	佐々木 秀 一
10	盛岡	盛岡市立洪民中学校	佐 藤 滋
11	岩手	葛巻町立小屋瀬中学校	阿 部 正 史
12	岩手	滝沢市立滝沢中学校	藤 澤 英 輝
13	岩手	滝沢市立一本木中学校	佐々木 英 幸
14	紫波	矢巾町立矢巾中学校	吉 岡 裕 晃
15	花巻	花巻市立花巻中学校	柏 木 廣 喜
16	花巻	花巻市立花巻北中学校	佐 藤 敦 士
17	花巻	花巻市立南城中学校	瀬 川 勝 司
18	花巻	花巻市立矢沢中学校	佐々木 律 夫
19	和賀	北上市立上野中学校	高 橋 亨
20	和賀	北上市立東陵中学校	千 田 浩 身
21	和賀	西和賀町立湯田中学校	吉 田 幸 哉
22	胆江	奥州市立水沢中学校	村 上 俊 明
23	胆江	奥州市立胆沢中学校	工 藤 久 尚
24	胆江	奥州市立江刺第一中学校	関 川 寛 司
25	一関	一関市立一関中学校	羽 柴 隆 之
26	一関	一関市立磐井中学校	瀧野澤 徹
27	気仙	陸前高田市立高田第一中学校	菅 野 美保子
28	気仙	陸前高田市立高田東中学校	伊 東 孝 志
29	釜石	釜石市立釜石中学校	齊 藤 雅 彦
30	宮古	宮古市立第二中学校	三 浦 政 勝
31	宮古	宮古市立崎山中学校	昆 野 賢 寿
32	宮古	宮古市立新里中学校	大久保 浩 一
33	久慈	久慈市立久慈中学校	小 橋 敏
34	久慈	久慈市立長内中学校	松 岡 聡
35	二戸	一戸町立一戸中学校	佐々木 由貴子

令和6年度 新 会 員

No.	地区	学校名	氏 名	前 所 属 職
1	盛岡	下小路	照 井 大 道	盛岡市立向中野小学校校長
2	盛岡	米 内	藤 尾 佳 子	宮古市立第二中学校副校長
3	盛岡	飯 岡	佐々木 康 隆	久慈市立山根小学校校長
4	盛岡	洪 民	小松山 浩 樹	宮古市教育委員会 学校教育課課長
5	岩手	小屋瀬	木 村 洋	一関市立一関東中学校副校長
6	岩手	江 刈	千 葉 竜 也	一関市立桜町中学校副校長
7	岩手	西 根	高 橋 茂	北上市立北上中学校副校長
8	岩手	滝 沢	及 川 博文	滝沢市立柳沢小・中学校校長
9	岩手	一本木	三 浦 信 之	花巻市立石鳥谷中学校副校長
10	岩手	柳 沢	小野寺 新 吾	一関市立萩荘中学校副校長
11	紫波	紫波第一	及 川 仁	花巻市教育委員会 学校教育課課長
12	花巻	花 巻	横 手 勝 美	花巻市立桜台小学校校長
13	和賀	東 陵	中 村 匡	一関市立萩荘小学校校長
14	和賀	北上北	米 川 聡	岩泉町立小川小学校校長
15	和賀	湯 田	福 井 慎 二	北上市立江釣子中学校副校長
16	胆江	金ヶ崎	大 森 啓 睦	紫波町教育委員会 学校教育課課長
17	胆江	前 沢	南 幅 正 勝	矢巾町教育委員会教育次長 兼 学校教育課課長
18	一関	一 関	小 岩 孝 朗	岩手県立野外活動センター所長
19	一関	一関東	菅 原 理 日	陸前高田市立高田東中学校副校長
20	一関	巖 美	青 沼 徹	奥州市立水沢中学校副校長
21	一関	舞 川	今 川 晋	紫波町立紫波第三中学校副校長
22	一関	藤 沢	大 川 憲 一	紫波町立紫波第一中学校副校長
23	一関	平 泉	古 川 泰 也	宮古市立津軽石中学校副校長
24	気仙	大船渡	和 賀 真 樹	県南教育事務所教務課長 兼 主任経営指導主事
25	釜石	唐 丹	金 野 学	大船渡市立末崎中学校副校長
26	宮古	第 二	米 倉 重 智	九戸村立九戸中学校副校長
27	宮古	崎 山	志 賀 誠	岩手町立沼宮内中学校副校長
28	宮古	新 里	佐 藤 和 史	盛岡市立黒石野中学校副校長
29	宮古	川 井	藤 島 洋 介	宮古市立川井小学校校長
30	宮古	岩 泉	藤 枝 昌 利	北上市立和賀東中学校副校長
31	宮古	小 川	鎌 田 崇	葛巻町立葛巻中学校副校長
32	宮古	田野畑	鎌 田 政 好	一戸町立一戸中学校副校長
33	久慈	長 内	外 館 邦 博	岩手県立生涯学習センター所長
34	久慈	大川目	佐々木 美江子	葛巻町立葛巻小学校校長
35	久慈	山形中	二階堂 聡	盛岡市教育委員会 学務教職員課課長補佐
36	久慈	普 代	柏 崎 裕 之	釜石市立唐丹小学校校長
37	二戸	一 戸	五十嵐 智	軽米町立軽米中学校副校長